



海蔵寺だより

第16号

令和元年12月
発行

～ 第二の矢を受け取るな～ “禅語”

お釈迦様は、悟りを開いた聖者と、悟っていない凡夫の違いを、第一の矢、第二の矢の譬（たとえ）で示しておられます。

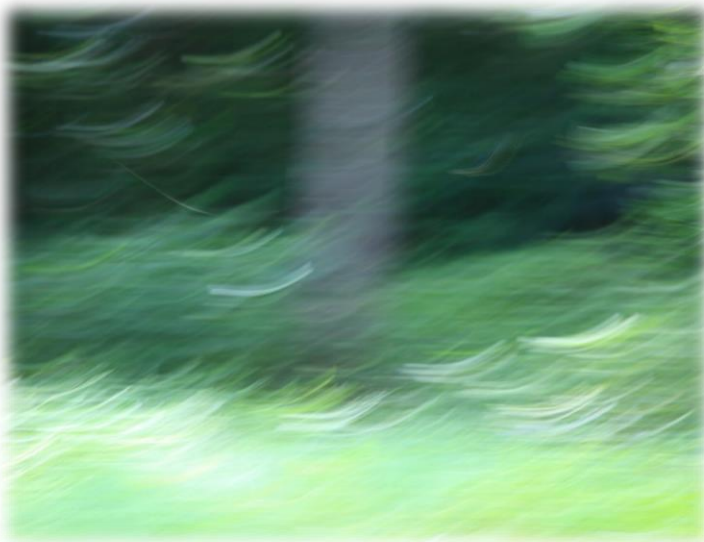


何かにつまづいた時に「痛い」と思い、美しい花を見て「きれいだ」と思う。これは第一の矢で聖者も凡夫も同じである。問題は第二の矢である。聖者は 第二の矢を受けない。



凡夫は「痛い」と思ったあとに「誰だ!!こんな所に物を置いた奴は!!と怒りをぶちまけ、結果怒りがますますエスカレートし、いつまでも不快感が持続する。美しい花を見た時も、「美しい」と思った後に、花を摘んで持ち帰り、花瓶に生けたり、庭に植えて咲かせたくなる。つまり凡夫には執着の心が働く。この執着が第二の矢である。聖者も凡夫も、第一の矢に関する限り変わりはない。問題は第二の矢である。マイナス心理にマイナス行動をとらない。

また、『風過而竹不留聲』*（風過ぎて竹に声を留めず）という禅語もあります。「さわやかな風が吹いてきて、竹の葉をサラサラと鳴らしていく。風が止めばもとの静けさ」という意味です。*『菜根譚』より



とらわれなければこころはいつも穏やか。仏教の基本の教えに、“執着しない”ということがあります。なかなか難しいことですが、感情やこころが動く時は、風が過ぎてしまえばなにごともなかったように静まる竹のようにありたいものです。

裏面もご覧下さい

一中職場体験



当時ではここ数年前から中学生の職場体験をお引き受けしております。今年も9月25・26日の二日間、弘前第一中学校の五名の生徒さんが来られました。



ただ今読経中

皆さんは、緊張の面持ちで挨拶を終えた後、読経・焼香から始まり、坐禅や清掃・仏具見学・法話・袈裟着用体験等の日程を粛々とこなしていました。中でも袈裟着用体験では、実際に住職が普段身に着けている法衣と袈裟を着用し記念撮影するという、なかなかできない体験もしてもらいました。

一部、お礼状の内容を紹介します。

…(略)実際に作業を体験し、おつとめにはたくさんの準備をしないといけないということがわかり大変だということがわかりました。私たちがおつとめに参加したときに、遺族の方に優しく寄りそっている姿が印象に残っています。身近にあると思っていた線香やお香も近い将来無くなってしまうかもしれないということを知りました。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました…(略)

慣れない坐禅や掃除等をしたりと、職場という意味からするとちょっと違う所もあるかとは思いますが、経験の一つにはなったかな？と思っております。

皆さん、二日間お疲れさまでした！



9/4~5 正法寺拝登と仙台・松島の旅へ



岩手県・正法寺にて

9月、修行中の長男を訪ね、岩手県奥州市の正法寺を訪ねてきました。精進料理をいただいた後、先祖供養のお勤めや、住職さんによる講話も拝聴してきました。最後は、長男の説明を聴きながら堂内を拝観してきましたのですが、料理を運んだり、お勤めする姿を窺うことができ、とても充実した一日となりました。

ここだけの話ですが、会った時、感動のため涙がホロリ…の息子の姿が印象的でした。(両親や檀家さん方のお顔を見たらつい…とのこと(/_:/))いい思い出です。

お寺からのお願いです



- ◆ 年回のお知らせは、お寺では7回忌からお知らせしておりますが、【電話にてご連絡→予約】でお勤めという事になります。つまりは、ご連絡いただいた時に初めて拝めるという事です。
- ◆ **お勤めの時は、半紙も必ずお持ち下さい。** 供物を上げる時に敷くのに必要です。(位牌堂の引出しに入れておくのがおすすめ！)
- ◆ 荷物を置いてその場を離れると、盗難の恐れがあります。お手洗いに行く時や、供物準備のために流しに行く時、更にはお墓に行く時など、貴重品を位牌堂に置いたままにしていますか？(危なすぎです！)
たとえ 短時間でも、手荷物は必ずお持ち下さい。

編集後記

6月からふた月に一度、曹洞宗東北管区教化センター主催の「禅をきく会」というのに参加している。和尚様方のご法話を聴いたり、曹洞宗青年会制作の映画をみたりと興味深い内容だ。今までも催されていたはずだが、こちらにそれをキャッチするアンテナがなく、恥ずかしながらこの歳にして初めて参加した次第。でもこの歳だからこそ、メモをとりながら聴きもらすまいとまじめに(?)興味深く通っている。勿論、終わった後の仙台のひとり街歩きがまた魅力的で…！日帰りの短い時間だが、気持ちよく出してくれる家族に感謝しつつ、次回のお話は？と、今からわくわくしている。

一年間お世話になりました。よいお年をお迎え下さい。 合掌